

基本的にはこれまで通り、すべての子供一人一人にとって「今日が楽しく明日が待ち遠しい学校」を目指すことを基調としていきます。

子供たちが安心して楽しく生活し学べるように、そして、保護者にとっても安心して子供を登校させられるように、そんな当たり前の学校を目指します。

そのために、家庭・地域・学校の連携をより一層深められるように尽力していきます。

1 学校教育目標

「よく考える子」 ⇒ どの子にも「わかる・できる」の授業づくり

- ① 各教科における主体性を育てる指導を展開（理解面）
- ② 授業規律・学び方においても主体性を育てる指導を意識（態度面）
- ③ 授業を通して、どの子にも有用感を味わわせる

◎ 「思いやりのある子」 ⇒ マイナス評価でなく、常に「プラス」の評価観

- ① 「違い」を尊重する 同調圧力でなく「協調性」「互譲の精神」を育てる
- ② 優しい言葉があふれる学級、学年づくり
- ③ 学級、学年、学校の活動を通して、どの子にも有用感を味わわせる

「じょうぶな子」 ⇒ 運動機会をつくり、楽しく実践

- ① 遊び・活動を通した運動習慣づくり
- ② 給食指導を通した食育の推進、栄養士と連携した指導
- ③ 遊び、運動を通して、どの子にも有用感を味わわせる

2 学校教育目標の具現化のための重点項目

重点目標は「思いやりのある子」です。特に今年度の重点項目は「優しさを行動で表す」ということです。どの学年・どの学級においても、いろいろな子がいて、いろいろなことが起きますが、それでもどの子も安心して過ごせるようにするためには、優しい行為があふれる学級・学年を目指す必要があります。

確かに心はだれにも見えないけれど 心づかいは見えるのだ

それは 人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の思いは見えないけれど 思いやりは見えるのだ

それは 人に対する積極的な行為なのだから （宮澤章二さんの詩「行為の意味」より）

この「行為の意味」という詩にあるように、子どもたちのもっている「優しい心や優しい思い」を積極的な「行為」という目に見えるものにしていく。それができれば、互いに優しい言葉があふれる学校になり、教育目標の「思いやりのある子」の育成を達成することができると考えます。それには、私たち教員も、常に「優しい心や思い」を積極的な行為として人に施していかなければなりません。

子供も、教員も、職員も、臨海小そのものが、優しい行為であふれる空間となるように、みんなで目指していきたいと思えます。

*重点項目の今年度の指標は、子供たちの「優しい行為が増えたか」です。